

山梨インターハイ 東京都選手団の活躍

文責 総監督 小林 隆雄

今年のインターハイは7月30日から8月3日までの5日間、「南関東総体」として「風林火山」の地である山梨県中銀スタジアムにて開催された。競技は連日「35度」以上の猛暑に見舞われたが、日陰に入ると爽やかな風を感じることができた。東京都の選手たちはコンディションの維持に苦勞しながらも健闘し素晴らしい競技力を発揮し顕著なる成果を上げたといえよう。

今年の東京都としての結果は、3種目に優勝したのをはじめ、男子述べ12種目女子述べ9種目の21種目もの入賞者を出すことができた。また、東京都高校新記録が3種目にも及んだ（男子100m・女子走幅跳・女子4×400mR）。一昨年度の新潟インターハイ・昨年度の大分インターハイでも20種目に入賞し、「東京都は強い！」と強く感じたが、今年はそれを上回る大健闘であった。昨年度の「東京国体」でも東京都の高校生の実力を証明できたが、「とにかく」東京都の高校生は「強くなったな」と実感した。

それは、都道府県対抗得点でも明らかであり、47都道府県中、男子は第3位、女子は第2位、男女総合では第3位としたのである。（第1位は神奈川県、第2位は京都府であった）

特に、大会2日目に行われた男女の100mでは「大会史上初」の快挙が達成された。女子100mで東京高校2年生のエドバー イヨバが女子短距離3冠を目指す青山選手（島根県松江商業高校）らを抑え優勝を果すと、その15分後には、準決勝で10秒37の東京都高校新記録をマークした同じ東京高校2年生の大嶋 健太が素晴らしい終盤の伸びを見せゴールを駆け抜けた。同一校での100mアベック優勝はインターハイ史上初めてであった。その快挙に会場は大いに盛り上がった。

大会4日目の女子走幅跳決勝では、6月の日本選手権で東京都高校新記録をマークし高校生ながら第2位とした水口 怜（白梅学園）が6mジャンプを連発し6m14という自己最高記録で優勝した。ライバルであった内之倉選手（鹿児島県甲南高校）も6mを越えていたが、水口選手は最高記録も内容も上回っており「圧勝」であった。「もう一つ」の大会初もあった。女子七種競技で白梅学園の高橋 このか（2位・5118点）、澤田 珠里（4位・5018点）が、同一校選手で5000点を越えるのも大会史上初の快挙であった。

また、男子200mではサニブラウン・Aハキーム（城西大城西）が1年生ながら21秒21という高校1年生歴代4位という好記録で第2位とした。その伸びやかな走りは高い潜在能力と将来性を感じた。近い将来「日の丸」を付け疾走する姿が容易に想像できた。男子円盤投の安藤 夢（東京高）は大会新記録をマークしながらも第2位と悔しい結果となったが、同じ第2位とした男子5000m競歩の小野川 稔（東京実業）と共にユース・オリンピックでリベンジを果たしてもらいたい。男子1500mでは、斎藤 雅英（早稲田実業）が得意のアストパートで優勝を狙ったがわずかに届かず第2位とした。だが、予選（3分51秒35）・決勝（3分51秒84）ともに3分51秒台をマークしたのは立派であった。第2位種目も4つもありました。

男女のリレー種目では、ハイレベルの南関東大会を勝ち抜いてきただけに全ての種目に入賞を果たした。特に、女子4×400mリレーでは東京高校が3分43秒19という東京都高校新記録を準決勝でマークしたのは見事であった。男子4×100mリレーでは城西大城西（4位・40秒28）・東京高校（5位・40秒31）の両校が入賞したのも素晴らしかった。男子4×400mでは八王子高校が東京都高校新記録まで「あとわずか」に迫り5位とし、女子4×100mでは東京高校が3年連続の入賞を3位で果たすなどレベルの高さを実証した。また、この4年間のインターハイでは、毎年総合での入賞校を出すこともできており、今年も東京高校が男子女子共に3位とした。また、白梅学園が2種目3名の入賞で女子5位に入ったことも競技力の向上の現れと感じた。

来年度は和歌山県での「近畿総体」であり、暑さと台風の危険が予想される。しかし、東京都の強さを来年度も発揮し、都道府県最高位を得たいと感じ帰京した次第である。また、今大会出場者の中から「東京オリンピック出場」へ夢を馳せることが出来ると確信した山梨インターハイであった。

詳しい記録や結果は別紙「東京都選手団記録一覧」参照

東京都高校新記録

男子100m	10秒37 (+1.9m)	大嶋 健太 (東京2)
女子走幅跳	6m14 (+1.9m)	水口 怜 (白梅学園3)
女子4×400mR	3分43秒19	東京高校
	奥田 真澄 (3)・森川 侑果 (2)・上村 希実 (2)・奥田 静香 (3)	

優勝者

女子100m	12秒06 (-2.4m)	エドバー イヨバ (東京2)
男子100m	10秒64 (-2.0m)	大嶋 健太 (東京2)
女子走幅跳	6m14 (+1.9m)	水口 怜 (白梅学園3)

総合

男子総合3位	東京高校	25点
女子総合3位	東京高校	24点
女子総合5位	白梅学園	20点

都道府県対抗

男子3位	61点
女子2位	47点
男女総合3位	108点

日・中・韓ジュニア交流大会

8月25日27日の両日、岩手県北上市で行われる同大会に、東京都から下記の3名が出場する

男子1500m	斎藤 雅英 (早稲田実業2)
女子100m	エドバー イヨバ (東京2)
女子800m	奥田 静香 (東京3)

ユース・オリンピック大会

8月20日～26日 中国・南京市

男子100m	大嶋 健太 (東京2)
男子10000m競歩	小野川 稔 (東京実業2)
男子円盤投	安藤 夢 (東京3)

DECANATION 2014

8月27日～9月1日まで、フランス・アンジェにおいて国別種目対抗大会が開催され、

女子走幅跳	水口 怜 (白梅学園3)	が出場する
-------	--------------	-------